



アスピアス!

JFA



JFA×日本財団
子ども未来プロジェクト

(公財) 日本サッカー協会 経営企画部サステナビリティグループ
2025/12/2



防災・復興支援活動

平常時

災害時（応急・復興）



子ども未来プロジェクト防災拠点整備
（日本財団助成）

内閣府
コミュニティ防災教育モデル事業



能登半島地震復興支援プロジェクト
（サッカーファミリー復興支援金）

内閣府
ボランティア団体交通費補助



文部科学省
被災地の子供への学習・体験活動の提供支援事業

阪神淡路大震災
新潟中越地震
東日本大震災
北海道胆振東部地震
熊本地震 など

サッカーやスポーツの力で
被災地を支援する声が
JFAへ多く集まる

<これまで>
地震の被害が収まってからの
復興支援活動

<これから>
災害直後から活動できる
事前の備え（防災・減災）

北海道・三陸沖地震
南海トラフ地震
首都直下地震
さまざまな大規模災害



能登半島地震

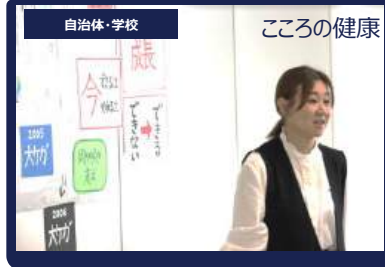
スポーツにしかできない
子どもたち（学校）への支援
日本財団と共同で実施

125か所 **1万人**以上
(2024年12月末現在)

大規模災害が起きても
サッカーやスポーツを通じて
子どもたちが自己肯定感を持ち
将来の希望を持てる
普段からの地域のつながりづくりを
日本全国で展開したい

JFA×日本財団 子ども未来プロジェクト

ゆめのたねの教室



自治体・学校
こころの健康
小学校3年生以下の低学年
を対象とした、スポーツを通じた
自己肯定感の基礎を育む授業
の創出。

2025年度50回
▼
2026年度**100**回

プロジェクト全体で
毎年**2,500**回実施
(小5・中2の既存の教室を含む)

一人でも多くの子どもたちに
夢を持つことの素晴らしさを伝える
新規実施エリアの開拓・自己肯定感向上
(小5・中2を含めた新規実施エリア数・スコア上昇)

新規パートナー獲得（企業）
自治体・学校との連携強化
サッカーファミリー増

キッズピッチ



NPOなど
からだの健康
大人の影響を受けずに自由に
ボールを蹴りスポーツを身近に
感じることができる、仮設のケ
ージ型ミニピッチの整備。

2025年度5ピッチ（ぼうさい拠点）
▼
2026年度**10**ピッチ（拠点+個別）

見守っていただく地域団体との連携
全国**50**ピッチ
47都道府県すべてに複数のピッチ

子どもの体力的低下抑制
地域スポーツへの関心向上
(地域内のスポーツ活動参加者数)
楽しく仲間とスポーツできた子どもの増加
(参加者数・満足度)

新規パートナー連携（非営利）
NPOとの連携強化
サッカーファミリー増

ぼうさい拠点



施設管理者など
災害への備え
大規模災害時に、フットボールセ
ンター等の拠点を活用し、速やか
に災害支援活動が実施できる拠
点の整備。

2025年度5拠点
▼
2026年度5拠点

南海トラフ・首都直下もカバーできる
(特に震災から1週間以内の対応に必要な体制整備)

全国**25**拠点

子どもと防災のための
地域コミュニティ構築
防災への意識向上
(地域コミュニティを意識した防災活動
認知度・参加者数)

新規パートナー連携（既存・非営利）
施設管理者との連携強化
サッカーファミリー増



「子ども」を取り巻く環境は過去最悪（2023年度時点）

小学校・中学校・高校

いじめ認知件数

732,568件（過去最多）

いじめ重大事態発生件数

1,306件（過去最多）

暴力行為発生件数

108,987件（過去最多）

不登校児童生徒数

415,252人（過去最多）

文部科学省「[児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果](#)」より

自殺した児童生徒数

529人（過去最多・2024年度）

厚生労働省・警察庁「[令和6年中における自殺の状況](#)」より

児童相談所 児童虐待対応件数

225,509件（過去最多）

文部科学省「[児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果](#)」より

ひとり親世帯の子どもの相対的貧困率 44.5%

厚生労働省「[国民生活基礎調査](#)」より

「子ども」の体力が過去最低（2023年度時点）

肥満傾向児の割合

5歳男子	2.94%（過去最高）
5歳女子	3.14%（過去最高）
小学6年生男子	13.00%（過去最高）
小学6年生女子	10.02%（過去最高）

痩身傾向児の割合

高校3年生男子	3.47%（過去最高）
高校3年生女子	2.33%（過去最高）

裸眼視力1.0未満の割合

小学校	36.84%（過去最高）
中学校	60.61%（過去最高）
高校	71.06%（過去最高）

外遊び不足

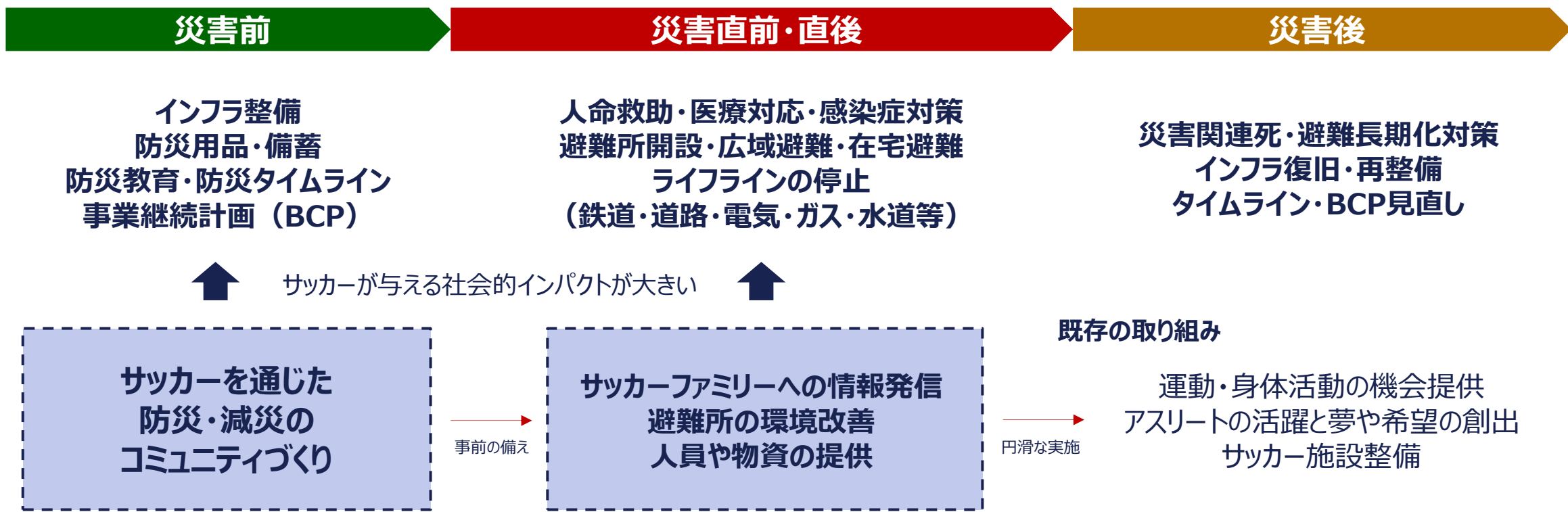
文部科学省「令和5年度学校保健統計調査の結果」より

「復興支援」の新しいストーリー

災害発生後の復興支援 + よりよい復興のための事前の防災・減災

行政・地域社会

サッカー



実際に災害が起こったあとのスポーツを通じたこころのケアの取り組みの連携とともに、平常時の防災・減災につながるサッカーを通じた地域コミュニティづくりにおける連携を全国で強化していきたい。

被災した子どもたちに対して1週間以内に支援を開始できる体制の構築

平時



居住スペース

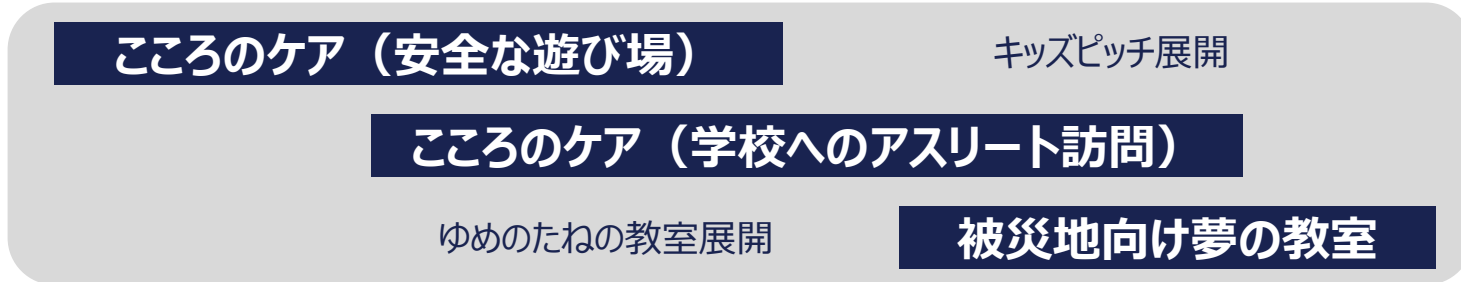
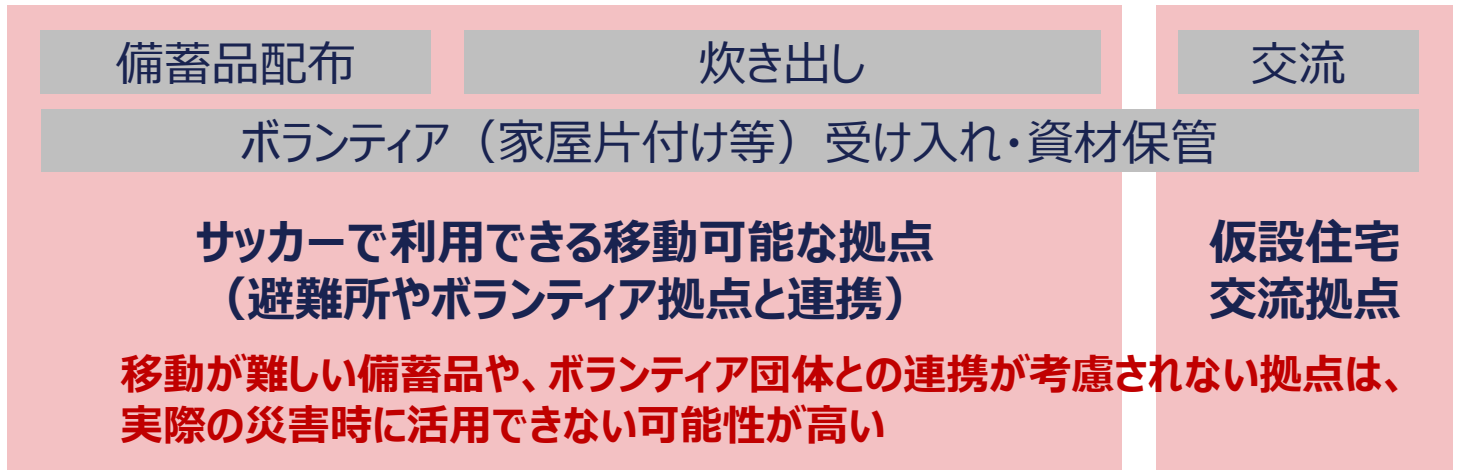
運営本部

救護・クーリングシェルター

更衣・シャワー・トイレ

子どもの遊び場・スポーツの場

学校教育・放課後活動の場



平時にも活用できるフェーズフリーが主流化 (備蓄しない防災)



サッカーの場にもともと必要な設備を整え活用できるようにしておくことで <サッカーにしかできない> 被災地支援を展開できる

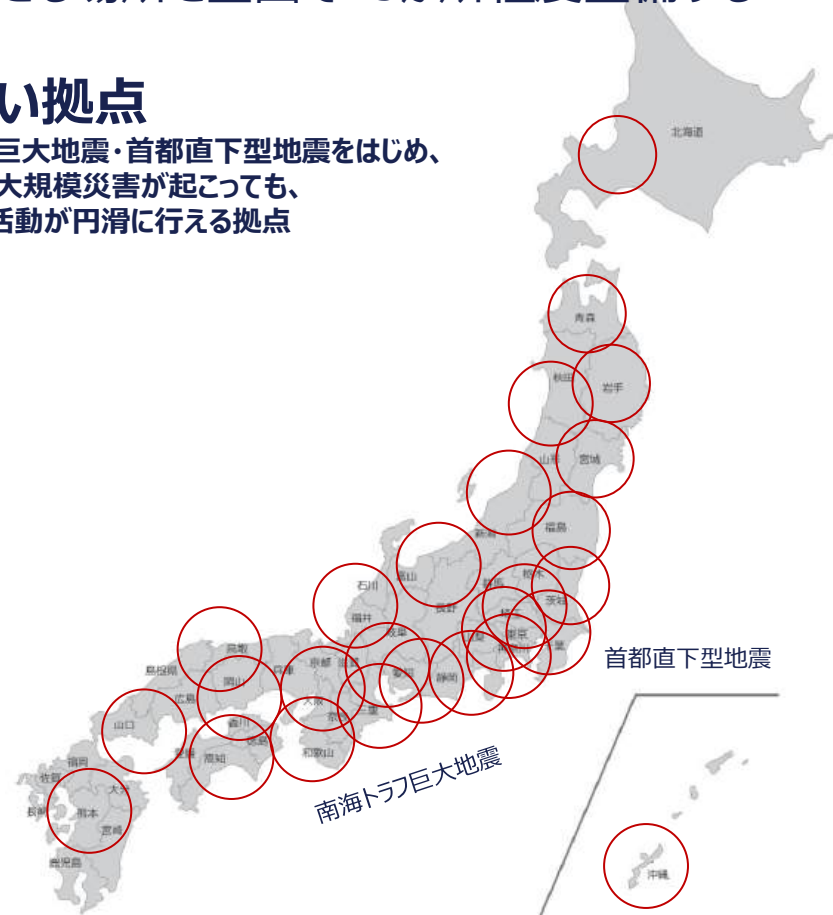
子ども家庭庁「災害時の子どもの居場所づくり手引き」(2025年5月発行) 参照

ぼうさい拠点25か所（5か所×5年間）整備の考え方

南海トラフ・首都直下の際に、重要なサッカー拠点やその周囲の地域が外部の支援がなくても1週間程度自活でき、また、その周辺の地域で被害があった場合に、拠点から移動して速やかにサッカーやスポーツを通じたことも支援を実施できる場所を全国で25か所程度整備する

ぼうさい拠点

南海トラフ巨大地震・首都直下型地震をはじめ、全国どこで大規模災害が起こっても、災害支援活動が円滑に行える拠点



ぼうさい拠点（25か所）

連携先

各都道府県協会1名以上の連絡担当者をJFAへ報告

事前

JFAで備蓄

必要に応じて
メイン拠点から分散配置

毎年

ワークショップ
(トイレ・炊き出し・宿泊・物資移動)

メイン拠点と連携

年1回各拠点で行う
ワークショップの範囲

大規模災害発生

活動開始
(トイレ・炊き出し・宿泊・物資移動)

情報収集

メインからサブへ移動

1週間

他拠点からの応援

2週間

サッカーやスポーツを通じた継続的な支援

初年度（2025年度）

初年度は、地域バランスを考慮し、北海道、東北、関東、関西、九州の5か所をターゲットに整備していく。その後、切迫性の高い首都直下地震・南海トラフ巨大地震に備え、優先的に整備していく。

ぼうさい拠点

初年度：地域バランス踏まえてJFAと密接に関係するサッカー施設へ配置
（北海道・福島・千葉・大阪・熊本）
2年目以降：南海トラフ・首都直下を念頭に、危機が切迫している地域から配置



カテゴリー	備品（今後精査）
トイレ	トイレカー（バリアフリー・牽引式）★ ※日常のイベントでも活用 非常用簡易トイレ 浄水器・ポータブル電源
居住	調理器具・備蓄食料（長期保存食） 飲料水・浄水器 保管倉庫→トレーラーハウス（移動式の子どもの支援拠点）
宿泊	間仕切りテント・簡易ベッド→トレーラーハウス（移動式の子どもの支援拠点） 給湯器・シャワー ポータブル電源

トレーラーハウス導入
こども支援体制強化

拠点整備イメージ（予定）

2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
北海道／浦幌町				
福島県／Jヴィレッジ	東北	東北	北海道	東北
千葉県／JFA夢フィールド	東京	静岡（東部）	東北	北陸
大阪府（調整中）	静岡（西部）	関西	神奈川	関西
熊本県／COSMOS	三重	四国	四国	山陰
	高知	沖縄	九州（宮崎）	四国

名称（災害救助法適用自治体）	被害状況	対応状況
令和7年2月4日からの大雪 （福島県、新潟県の一部）		（救助終了）
令和7年岩手県大船渡市における大規模火災 （岩手県大船渡市）	過去最大の林野火災が発生 被災後の市内の状況 大船渡市ホームページ	（救助終了）
令和7年3月23日に発生した林野火災 （今治市、西条市）	JFAアカデミーの近隣地域に被害 今治市林野火災の消火活動について（最終報）愛媛県	（救助終了）
令和7年台風第8号に伴う災害 （沖縄県南大東村、北大東村）	令和7年台風第8号に伴う災害（大東島地方）に係る 復旧対応の状況 沖縄県公式ホームページ	（救助終了）
令和7年8月6日からの低気圧・前線による大雨 （石川県金沢市、山口県宇部市、熊本県熊本市、八代市、玉名市、上天草市、宇城市、天草市、美里町、玉東町、長洲町、氷川町、鹿児島県薩摩川内市、曾於市、霧島市、始良市） ※災害救助法に基づき、熊本市は「災害救助市」に指定され、熊本県と並んで独自に避難所設置等の災害救助活動を実施。	令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨に係る 被害状況等について：防災情報のページ - 内閣府 令和7年8月10日からの大雨に関する災害対策本部会議 - 熊本県ホームページ 8月10日からの大雨に関する災害対策本部会議資料 / 熊本市公式サイト 鹿児島県 / 令和7年8月7日からの大雨に関する情報	激甚災害（本激） 11月14日指定 「令和七年八月五日から九月二十一日までの間の豪雨及び暴風雨による災害についての激甚災害並びにこれに対し適用すべき措置の指定に関する政令」について ※サッカーファミリー支援金募金設置し活動中 令和7年豪雨 支援金募金について
令和7年台風第15号等 （静岡県静岡市、伊東市、島田市、焼津市、掛川市、藤枝市、御前崎市、菊川市、牧之原市、榛原郡吉田町）	令和7年台風第15号情報 静岡県公式ホームページ	
台風22号 （東京都利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村）	令和7年台風第22号及び第23号に係る対応について 東京都防災ホームページ	激甚災害（局激）見込み 令和7年台風第22号、第23号の暴風雨による災害についての激甚災害及びこれに対し適用すべき措置の指定見込みについて
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災 （大分市）	令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災 災害情報について - 大分県ホームページ	

拠点候補地域の皆さまへ

「災害時のこども支援」が円滑に実施できる環境整備のお願い

- **トレーラーハウス・キッズピッチの設置場所確保**

- **トレーラーハウス**

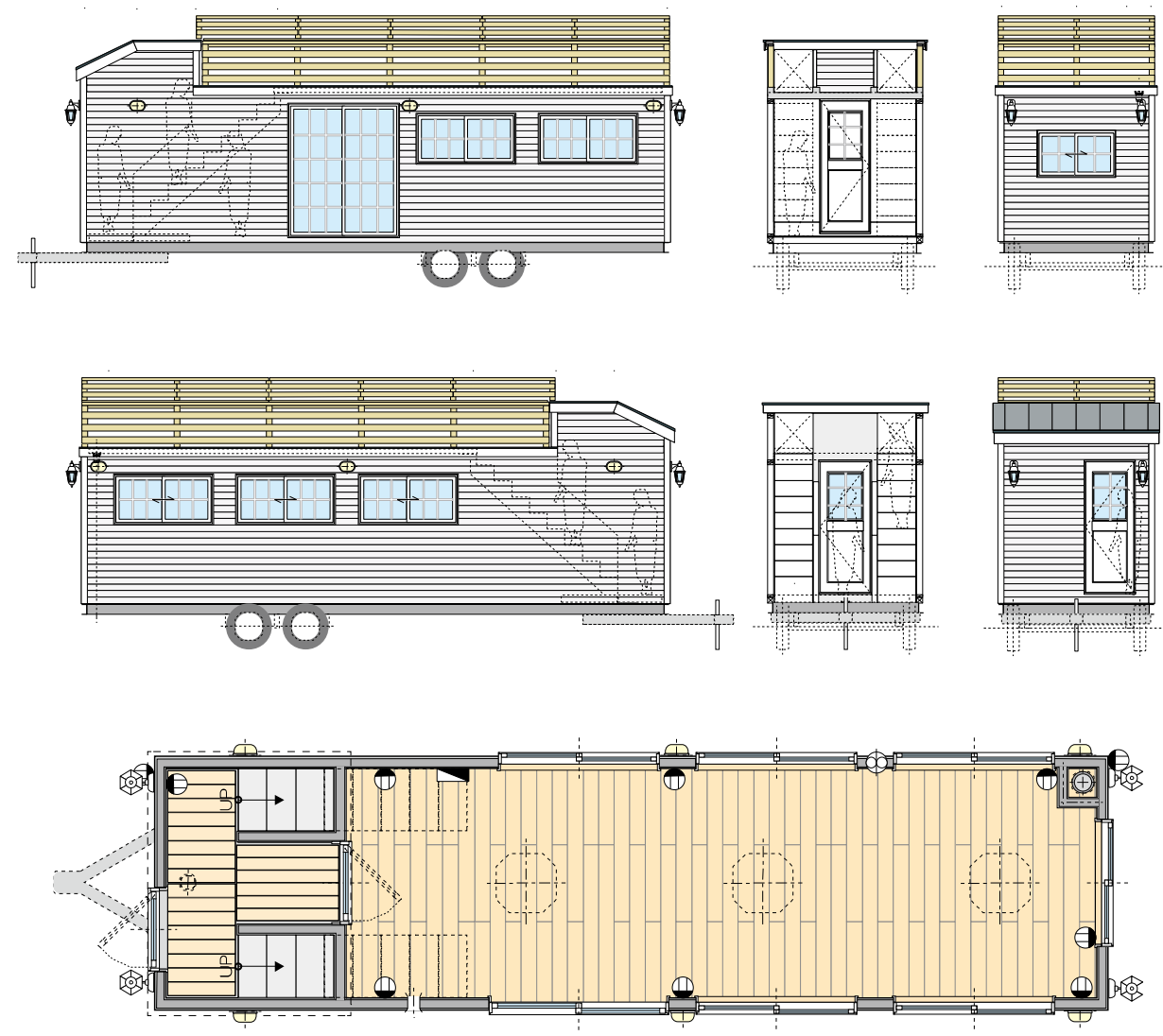
- 公道に接続し、いつでも出入りできる場所を無償でお借りしたい。
(長さ9m・幅2.4mの4トントラックや大型バスが出入りできるスペース)
 - 可能であれば、電源・水道の供給をいただきたい。
(ソーラーパネル・ポータブルバッテリー・浄水器はトレーラーハウスへ配備予定)
 - 非常時／防災教育実践時にトレーラーハウスが円滑に移動できるよう、地域のトラック会社をご紹介いただきたい。(可能であれば)

- **キッズピッチ**

- トレーラーハウスと組み合わせて活用できる場所で、キッズピッチ（可搬式のネットで囲われたコート）を設置していただきたい。
(通常は、広く公募し設置先を選定しているものを展開 <ご参考>)

- **平常時におけるトレーラーハウスの活用**

- トレーラーハウス内に掲示する防災に関する展示の開放（施設の開放時間に合わせた鍵の鍵閉めや簡単なメンテナンス）
 - 年に1回以上の地域コミュニティにおける防災ワークショップの実施
(当初2年間はJFAが申請中の内閣府支援制度を活用できる見込み)
 - トレーラーハウスを活用したキッズ・親子フェスティバル等の開催
 - トレーラーハウスを移動させた地域での乳幼児・親子などを対象とした防災教育の実践
 - 災害時の「共助」の担い手となる地域コミュニティとの定期的な会議
(学校、保育所等、公民館、消防団、ボランティア団体、サッカークラブなど)



主なトレーラーハウスの機能

- ・ソーラーパネル付ポータブルバッテリー
 - ・エアコン
 - ・冷蔵庫
 - ・浄水器（1日200人分）
 - ・キッズスペース（センサリールーム・ベビールーム）
 - ・スターリンク（WiFiスポット）
 - ・打ち合わせスペース（モニターディスプレイ・音響設備）
- ※トイレカーは別途整備予定

主なトレーラーハウスの設置条件

- ・サイズ長さ9m×幅2.4m高さ3.8m（外付け階段等除く）
 - ・重さ3トン程度（4トン以下）
 - ・公道につながる4トントラックまたは大型バスが入れる空間（災害時や防災教育実践時は、いつでも移動させられる状態）
 - ・100V（または200V）電源（供給が難しい場合はソーラーパネルでポータブルバッテリーへ給電）
 - ・浄水器用の水道水（供給が難しい場合は給水タンクまたは川の水等（汚水以外）で給水）
- ※敷地内であれば、2トンフォークリフトで移動可能


※原則、5年間はJFAが資産として保有、その後は協議（設置先への無償譲渡を想定）


トヨタVIKを活用したバリアフリートイレカーの防災拠点への配置を検討・・・通常はトイレや更衣室としてイベント等で活用


管理・運用もしやすいモバイルトイレ

POINT.1  **普通免許でけん引**
けん引免許不要の普通自動車で移動できるコンパクトさ

POINT.2  **さまざまな電源で稼働**
電動車や発電機、家庭用コンセントにも接続可能

POINT.3  **トイレは水洗式で衛生的**
1日程度の連続使用ができる節水型トイレを採用

POINT.4  **上下水道の直結ができる**
使用回数の上限がない定置型としての設置も可能

POINT.5  **カーラッピングにも対応**
自治体や企業のイメージにあわせた車体デザインに



※スロープの仕様については今後変更になる場合がございます

年度	地域	設置先	状況	拠点設置地域 (連携地域)	施設管理者等	設置時期
2025 年度	北海道	浦幌町	JFA内設置地域確認済 設置時期調整中	浦幌町 (札幌市)	浦幌町	※2026年1月札幌ドームで展示 2026年1月～3月
	福島県	J-Village	JFA内設置地域確認済 設置時期調整中	福島県ほか	J-Village (福島県)	※東京で展示 2026年1月～2月
	千葉県	高円宮記念JFA夢フィールド	設置済	幕張ベイトウン 自治会連合会 千葉市	JFA 千葉県	10月11日JFA夢フィールドデー ※10月25日ベイトウンで展示
	大阪府	(調整中)	JFA内設置地域確認済	(調整中)	(調整中)	2026年3月
	熊本県	熊本県フットボールセンター-COSMOS	設置済	嘉島町 (熊本市)	熊本県FA 嘉島町	11月30日設置セレモニー ※1月熊本市で展示 (熊本地震10年)

拠点（トレーラーハウス）の整備とともに、地域コミュニティとサッカーによる防災啓発を実施。

トレーラーハウス・キッズピッチ：子どもの居場所・遊び場づくりの拠点

地域コミュニティ：学校・公民館（避難所）・保育所・子ども食堂・第三の居場所・

ボランティア団体・自治会・商店会・その他自治体や防災組織など

サッカーのコミュニティ：サッカーチーム・スポーツ施設・ファンサポーター

2025年度設置予定5か所のうち、4か所で具体的な設置先の調整が完了
北海道浦幌町・福島県J-Village・千葉県JFA夢フィールド・熊本県フットボールセンター-COSMOS
うち、2か所（千葉・熊本）は設置が完了し、実際に活用されている状況

千葉 JFA夢フィールド



10月11日・11月15日の2回のJFA夢フィールドデーにおいてトレーラーハウスをJFA夢フィールドのクラブハウス前に移し、キッズピッチも活用しながら防災ワークショップや永島昭浩防災・復興支援部会長によるゆめのたねの教室を実施。また、能登半島の小学校低学年の選手を18名招待し、能登半島地震において炊き出しの被災地支援活動を行ったボランティアにもお越しいただき、被災地復興支援と防災教育としての場としても活用した。
また、キリンチャレンジカップと天皇杯決勝で国立競技場へ運搬しての活用も行い、平常時のイベントでの防災教育の実践を通じて、非常時の子ども支援のための備えにつなげることができた。幕張ベイタウン自治会連合会の役員にもご来場いただき、地域における連携についても引き続き今後も協議していく。

熊本 熊本県フットボールセンター COSMOS



11月30日に熊本県フットボールセンターCOSMOSにおいて、「嘉島つながるフェス ～防災×サッカー×農～」が開催され、嘉島町長長の鍋田平様や熊本県サッカー協会河田信之会長などが出席し、オープニングセレモニーを行った。会場内では、OSHI FARM FESと題した農業マルシェで地元の農家の皆さんによる野菜や果物の販売や、抽選会・じゃんけん大会とともに、熊本市現代美術館と東京藝術大学の文化的処方推進室による「Diversity on the Arts Project」の一環で、熊本市職員による防災グッズを使った人形劇のワークショップが行われ、キッズピッチでは元日本代表徳永悠平さんも参加し、子どもたちとボールを蹴って交流。サッカー・アート・農業・防災の4つを組み合わせ、多くの地域住民が参加する中で子どもの居場所・遊び場を考える一日となった。

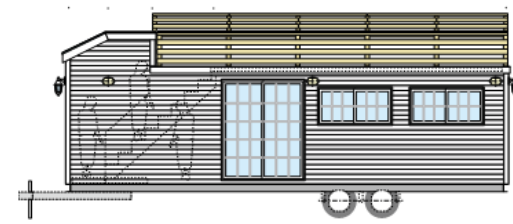
10月からの主要試合を、能登半島地震の復旧・復興につながる発信（風化防止）に注力することとし、特に、能登半島地震や過去の災害の発信を今後の災害への防災啓発とセットにした活動として行う。

開催日	試合	会場	オウンド	ブース	キッズピッチ	ビジョン	場内放送	会場募金
10/4(土) 5(日)	ビーチサッカー日本代表	沖縄/西原きらきらビーチ	SNS	ブース			実施	
10/10(金)	SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ	大阪/パナソニック スタジアム 吹田	SNS	ブース		上映	実施	実施
10/14(火)	SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ	東京/東京スタジアム	SNS	ブース		上映	実施	実施
10/17(金) 19(日)	フットサル日本代表	静岡/北里アリーナ富士	SNS	ブース		上映	実施	
11/14(金)	SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ	愛知/豊田スタジアム	SNS	トレーラーハウス ※トイレカー	キッズピッチ	上映	実施	実施
11/18(火)	SAMURAI BLUE キリンチャレンジカップ	東京/国立競技場	SNS	トレーラーハウス		上映	実施	実施
11/22(土)	天皇杯決勝	東京/国立競技場	SNS	トレーラーハウス	キッズピッチ	上映	実施	実施
11/29(土)	なでしこジャパン MS&ADカップ	長崎/長崎スタジアムシティ	SNS	ブース		上映	実施	
2026/1/1(木・祝) 能登半島地震2年	皇后杯決勝	東京/国立競技場	SNS	トレーラーハウス		上映	実施	実施

10月～1月の主要試合を、能登半島地震の復旧・復興につながる発信（風化防止）に注力することとし、特に、能登半島地震や過去の災害の発信を今後の災害への防災啓発とセットにした活動として行う。

パターンA 防災拠点のトレーラーハウスとセットで展開

能登半島地震における支援活動の経験を踏まえ、今後の大規模災害時に子どもの居場所づくりをはじめとした被災地支援活動を円滑に実施できるよう全国に展開するトレーラーハウスやキッズピッチを、代表戦の試合会場へ展開。
試合会場では、未就学児も楽しめる遊び場を設けるとともに、実際の大規模災害直後に必要となる、スマホの充電、通信、飲料水確保などを、実際の防災拠点の設備として体験していただきながら、災害時でも子どもの遊び場が必要で、サッカーファミリーの力を活かせる場を作れるということを多くの方々に実際に感じていただく機会を作る。
防災拠点において、能登半島地震をはじめとした過去の災害についての実際の支援活動のパネル展示を行い、これまでに大きな災害が起こっていない地域でも大きな被害が起こり得ることを来場者へ伝える中で、いまなお復興の途上にある能登半島地震の記憶の風化防止と防災啓発につなげる。



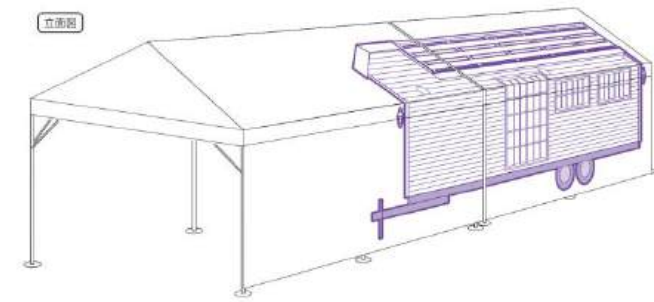
トレーラーハウス



キッズピッチ

パターンB 防災拠点をイメージしたテントのブースを展開

上記、トレーラーハウスの展開が難しい場合において、防災拠点をイメージしたブースを展開し、大規模災害直後に必要となるスマホの充電、通信、飲料水確保を体験しながら、災害時でも子どもの遊び場が大切であることを多くの方々に実際に感じていただく場を作る。



テント2張り



子どもの遊び場
(10m×10m程度)

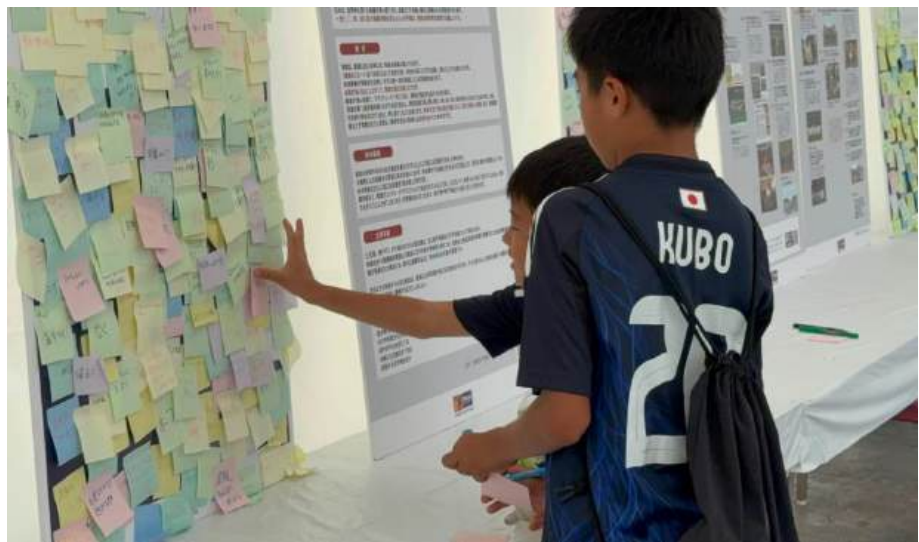
プラ柵で囲われたスペースなど

内閣府事業概要：地域住民・団体、教育機関（学校等）、地元企業等の連携による地域全体(コミュニティ)による防災教育実践活動を推進することを通じて、地域住民等の防災意識を高め、自発的な防災活動への取組と防災能力の向上に資するとともに、幼少期のこどもから大人までの事前防災能力の向上及び地域を担う意識の醸成、さらに「コミュニティ防災教育」の普及モデルを作成・展開し、全国展開を図る。（内閣府ウェブサイトより）

申請内容：①ぼうさい拠点における地域連携（近隣地域での展開を含む） ②代表戦会場における防災啓発 ③過去の被災地（能登半島・熊本・東日本）における復興教育との連携 ④映像等による発信（過去の災害の記憶・教訓、スポーツ×防災教育コンテンツ、防災教育の記録・共有）

活動	内容	主な連携先	実施予定日・会場	防災拠点活用
① 防災拠点連携	各地の防災拠点を中心に地域連携・体験学習を推進	防災拠点5地域（FA・自治体他） 北海道・福島・千葉・大阪・熊本	10/11 千葉／夢フィールド 11/15 千葉／夢フィールド 11/30 熊本／熊本県フットボールセンター 1/6-7 北海道／札幌ドーム 1/10-11 熊本／花畑広場 3/7 そなえパーク	トレーラーハウスで実施
② 試合会場情報発信	サッカー日本代表などの試合会場 で防災展示・啓発	各試合開催地	10/10 大阪（吹田） 10/14 東京（味スタ） 11/14 愛知（豊田） 11/18 東京（国立） 11/22 天皇杯決勝（国立） 1/1 皇后杯決勝（国立）ほか	一部トレーラーハウスで実施 展示物は防災拠点と共通 記録は防災拠点で上映
③ 被災地復興教育	能登半島・熊本・東日本大震災 の経験を踏まえた復興教育・交流	南三陸町・熊本・能登半島など	10/5 宮城県南三陸町 11/30 熊本県フットボールセンター 1/1 皇后杯決勝 ※能登半島地震被災地等調整中	展示物は防災拠点と共通 記録は拠点等でも上映
④ 映像・記録発信	過去災害の記憶・教訓やスポーツ ×防災教育の映像発信	NHKなど	12月 NHK（映像製作）	拠点で実施する防災教育の コンテンツ等

「がんばろうニッポン！～サッカーファミリーのチカラをひとつに～」 防災・復興支援ブース展開





about アスパス!

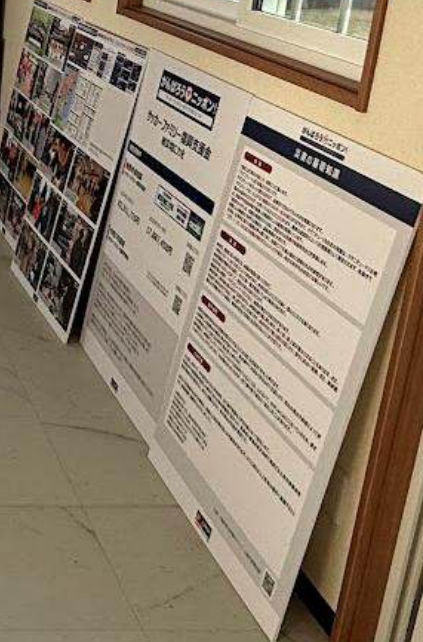
「アスパス!」は、日本サッカー協会 (JFA) が展開しているサステナブルな活動の総称です。

サッカーやスポーツとより関係が深く、より貢献できる「環境」「人権」「教育」「地域」の5つの領域を重要課題と定め、サッカーファミリーとともにサステナブルな社会の発展に貢献していきます。



アスパス! に込めた思い

「アスパス!」は、「Aspa+Pass」の「Aspa=アスパ」の「Aspa」は、(地域+Aspa)の「Aspa」を何層も重ね、サッカーファミリーと地域を結ぶ「パスをつなぐ」という思いを込めています。また、「Aspa」は、サッカーを通じて地域の発展を促す「Aspa」を何層も重ね、サッカーファミリーと地域を結ぶ「パスをつなぐ」という思いを込めています。





Thank you.